



ビンテージだけど速いアメ車 それがこのクルマの魅力です!

免許を取って最初に買ったのは、FDのRX-7。でも父親がC-1500に乗ったことでアメ車に引き込まれ、自らもC-1500→エスカレードを乗り継ぐ田澤さん。そんな彼が次に選んだのが、シエベルマリブだった。

■ THANKS : GraceCab Tel.068-35-7790 <http://gracecab.jp/>
■ PHOTO : 浅井岳男 ■ TEXT : 空野陵

魅惑 派手に決めるか、クールに決めるか
カスタムの面白さは無限大
EXOTIC CUSTOMS



'65 CHEVROLET CHEVELLE MALIBU

OWNER
NADYUKI TAZAWA



リアサスペンションはコイルリジッドのままだが、トレーリングアームをCCPの製品に変更。マフラーはシンプルだがフロントパイプから交換し、V8サウンドを奏でる。



フロントサスペンションはコイルオーバーに変更し、近代的なハンドリングを実現。フロントタイヤは225/50R17に変更し、ノーマルの15インチから2サイズインチアップする。

ただ古いのではなく快適に安心して乗れる仕様を追求

最初の愛車は国産車だったが、その後C-1500やエスカレードを乗り継いできた田澤さん。クルマに求める物は人それぞれだが、田澤さんの場合「居住性や快適性も大切ですけど、やっぱりクルマは速い方が楽しいですよ」と語り、SUVから乗り換えを決定したそう。

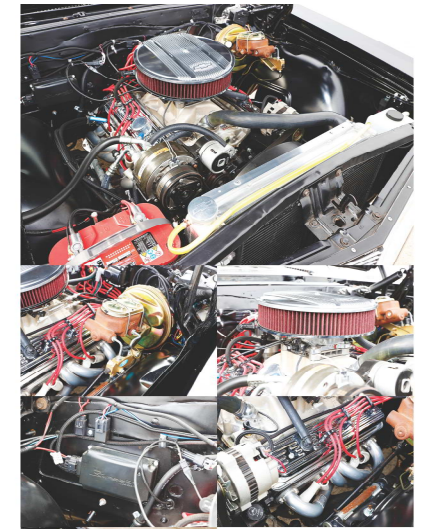
ちなみに田澤さん、ビンテージにはあまり詳しくなかったそうだが、絶対条件として挙げたのがV8エンジン。また、奥様と安心して出かけられるように、エアコン&オーディオの装備もマスト。また信頼性を重視したため、ナンバーズマッチなどにはまったくこだわらず、インジェクション化された車両を探したそう。

ちなみにカスタムやメンテナンスはクレーンに任せているが、このシエベルはアメリカで仕

上げた物を購入。当初はホイールにチッピング塗装が施されていたが、ガンメタリックにペイント。非常に上品なスタイルに仕上げられているが、昨年の12月に開催されたX5フューチャルでは、見事ラジカルカスタム・クーペ部門で1位を受賞! 内外装やエンジン、さらにはサスペンションまで手が加えられており、受賞するのも納得だ。

また今後の目標を聞いてみると「個人的にはボディカラーをブラックにしたいですね。あとはエンジンを383に載せ替えるか、ボアアップしたいです。あと、可能ならMTに積み換えたいです」と多くの夢を語ってくれた。

新しいクルマが速くて快適なのは当然。でも、古くても現代車と同等の水準に仕上げることは可能だ。田澤さんのシエベルには、クルマの走りを楽しむ」と言っ、本質的な部分と「個性の追求」という二面性が盛り込まれている。



350のブループリントエンジンを搭載。旧車らしきよりも安定性と快適性を重視し、インジェクターに変更。電動ファンも装着し、オーバーヒートとは無縁。四輪ディスクにも変更して制動性能もアップ。



エクステリアは、カラーリング以外は非常にシンプル。田澤さんとしてはチルドラックにいずれペイントしたいと構想中。ミラーは当然運転転座のみで、多くの人が驚くそう。



エクステリアに合わせ、内装もレッドで統一。リアシート後方にはスピーカーを増設。オリジナルの雰囲気を維持するが、USB接続可能なヘッドユニットを装着し、サウンドも追求する。